

2021年度 事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

特定非営利活動法人近畿バイオインダストリー振興会議

2021年度事業報告書

事業内容

I. 会務関連

1. 会員総会・理事会 2021年 6月17日(木)

2020年度事業報告・2020年度活動計算書

2021年度事業計画・2021年度活動予算書

役員選任

2. 理事会

今年度は上記以外に理事会の開催案件はなかった。

3. 記念講演会 WEB開催

「データ立国論」

慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 教授 宮田裕章

4. 新規会員勧誘活動

コロナによる業績悪化などの理由により、本年度7件の退会があったが、新規入会勧誘活動を積極的に行った結果、目標であった新規正会員10社を達成することができた。年間の会費収入も増加したが、来年度退会予定もあり、依然厳しい状況が続いていることから、今後も継続的に勧誘活動を行う必要がある。

◆退会:正会員 3社(3口)、準会員 4社、

◆入会:正会員11社(12口)、増口(1口)、準会員から法人1社、準会員 1社

5. 活動報告会

バイオコミュニティ開催(BiocK)のコンセプトや意義を説明した。また、今年度新規に入会した会員を紹介するイベントを企画し、オンラインで開催した。聴衆は会員のみとし、新規会員が希望する時間(1会員あたり10~30分)で事業紹介と質疑応答を行い、終了後にはオンライン交流会も実施した。会員相互の理解を深める良い機会となり、いくつかの商談に発展した。

◆2021年 5月12日(水) 参加者:52名

発表企業:株式会社ナレッジパレット、シーエスクリエ株式会社、富士産業株式会社

◆2021年 5月17日(月) 参加者:35名

発表企業:株式会社ナレッジパレット、シーエスクリエ株式会社

◆2021年10月 7日(木) 参加者:34名

発表企業:セルインク株式会社

II. 業務関連

1. バイオ関連技術産業化支援事業

(1) バイオコミュニティ関西

内閣府のバイオ戦略に基づくグローバルバイオコミュニティの形成を目指し、「バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)」を設立した。産業界が中心となって、社会課題解決のためのオープンイノベーションの場をつくることがコンセプトであり、近畿バイオと都市活力研究所が事務局を担当する。

内閣府への認定申請のほか、今年度は以下の取組みを行った。

2021年5月12日 :近畿バイオ会員向け説明会実施
2021年7月1日 :バイオコミュニティ関西(略称:BiocK)設立(委員33名)
2021年7月13日 :分科会発足会議開催(8分科会から25名参加)
2021年7月15日 :第1回委員会開催
(委員25名、代理4名、随行者15名、欠席委員3名)
2021年10月 :連携機関登録開始
2021年12月 :ロゴ制定
2022年1月 :ホームページ開設
2022年2月1日 :第2回委員会開催
(委員18名、代理8名、随行者10名、欠席委員9名、
分科会オブザーバー参加11名、オブザーバー4名)
:マスタープラン案の審議、記者発表
2022年2月28日 :内閣府公募への申請
2022年3月30日 :内閣府審査面談
2022年3月末現在 :委員35名、分科会14件、連携機関登録21件

◆バイオ戦略トークセミナー 環境エネルギーの未来戦略・バイオメタンの有効活用

2021年10月 1日(金) 参加者:128名

「バイオガスのエネルギー利用とその高品質化について」

京都大学 工学研究科 都市環境工学専攻 准教授 大下 和徹

「日立造船のカーボンニュートラルに向けたバイオメタン、合成メタンへの取り組み」

日立造船株式会社 環境事業本部 環境技術推進部 部長 田中 朝都

「バイオメタンの最大化に向けて」

大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー 坪田 潤

【トークセッション】

京都大学 工学研究科 都市環境工学専攻 准教授 大下 和徹

日立造船株式会社 環境事業本部 環境技術推進部 部長 田中 朝都

大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー 坪田 潤

◆バイオ戦略トークセミナー プラスチックの社会課題とバイオプラスチックの有効活用

2021年11月24日(水) 参加者:92名

「循環型社会実現に貢献するバイオプラスチックの開発とビジネス」

三菱ケミカル株式会社 サークュラーエコノミー推進本部

兼 ポリマーズ&コンパウンズ企画本部 佐野 浩

「バイオプラスチック総論と研究最前線」

大阪大学大学院 工学研究科 教授

宇山 浩

【トークセッション】

三菱ケミカル株式会社 サークュラーエコノミー推進本部

兼 ポリマーズ&コンパウンズ企画本部 佐野 浩

大阪大学大学院 工学研究科 教授

宇山 浩

サラヤ株式会社 商品開発本部 副本部長

奥山 俊郎

◆第1回フォトニクス生命工学分科会シンポジウム(分科会主催)

2021年11月26日(金)

参加者:112名

特別講演:「医工連携が拓く未来医療」

大阪大学大学院 医学系研究科 保健学科 未来医療学寄付講座 教授

／大阪大学大学院 医学系研究科 名誉教授 澤 芳樹

「フォトニクス生命工学研究開発拠点とラマン分光イメージング」

大阪大学大学院 工学研究科 教授

藤田 克昌

「ラマン顕微鏡を用いた細胞内分子の無標識可視化技術」

産業技術総合研究所 先端フォトニクス・バイオセンシング OIL

副ラボ長 藤田 聡史

「感染症の早期診断を実現する Point of care デバイスの開発」

産業技術総合研究所 先端フォトニクス・バイオセンシング OIL

副ラボ長 永井 秀典

「COI-NEXT での連携の方向性や産学官医の連携の在り方」

シスメックス株式会社 中央研究所

先端工学研究グループ 部長 岩永 茂樹

「立体臓器構造の構築と医療・創薬・食分野への応用」

大阪大学大学院 工学研究科 教授

松崎 典弥

「バイオセンシングとデジタルヘルスケア」

産業技術総合研究所 先端フォトニクス・バイオセンシング OIL

ラボ長 民谷 栄一

◆バイオ戦略トークセミナー関西Bio拠点におけるスタートアップエコシステムの形成に向けて
2021年12月 9日(木) 参加者:201名

「神戸大学発バイオベンチャーの事例研究

～シード期からアーリー後期迄の事業創造プロセスと現状の課題～」

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授 山本 一彦

「事業会社のオープンイノベーションへの期待と課題」

アストラゼネカ株式会社 イノベーションパートナーシップ&i2.JP 劉 雷

「世界初の「再生誘導医薬」の開発経緯とステムリムのビジネスモデル」

株式会社ステムリム 代表取締役 社長執行役員 岡島 正恒

【パネルディスカッション】

株式会社三井住友銀行 関西成長戦略室 成長事業開発部 部長 宮川 潤

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授 山本 一彦

アストラゼネカ株式会社 イノベーションパートナーシップ&i2.JP 劉 雷

株式会社ステムリム 代表取締役 社長執行役員 岡島 正恒

三菱UFJキャピタル株式会社 執行役員 ライフサイエンス部長 長谷川 宏之

バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター 坂田 恒昭

(2) 産学個別マッチング

大学の技術シーズと企業のニーズとのマッチングを目的として、近畿圏の大学の産学連携部門とのネットワークを活用し、技術シーズの発掘を行うとともに、企業への紹介を行った。また、新しい技術を有する中小・ベンチャー企業を発掘し、ニーズを有する企業へのマッチングに繋げ、事業化を支援した。

(3) 関西再生医療産業コンソーシアム(KRIC事業/近畿経済産業局)

本事業は2017年度から継続しており、当初の3年間はKRP(京都リサーチパーク(株))が受託し、近畿バイオでは動物実験代替法に関わるセミナーを開催してきたが、2020年度からNIRO(公益財団法人新産業創造研究機構)が受託し、近畿バイオは再生医療事業推進のための個別マッチングを目的としたコーディネーター活動を実施した。KRIC登録企業(209社/2021年8月現在)を中心に個別面談を実施し、シーズ・ニーズのヒアリングからマッチング面談に繋げるとともに、非登録企業との面談によりKRIC登録の勧誘も行った。

◆活動実績

コーディネーター:近畿バイオから4名登録
面談実績:56件(オンライン面談中心) (昨年度134件)
うちマッチング実績:9件 (昨年度 25件)

(3) スマートセル関連実用化支援事業(近畿経済産業局)

本事業は2018年度から継続して実施されており、近畿バイオでは調査事業やセミナー等を実施してきたが、今年度の受託はなかった。

(4) 追加受託:関西バイオものづくりフォーラム2022(近畿経済産業局)

本フォーラムの運営を近畿経済産業局から受託し、LINK-J WESTにてハイブリッドで開催した。チラシ作成、広報活動、講師8名との連絡調整、会場運営、報告書作成等の対応を行った。

2022年 3月16日(水)

参加者:298名

「経済産業省における今後のバイオ政策の方向性について」

経済産業省 商務・サービスG 生物化学産業課 課長補佐(総括担当)

／大臣官房スタートアップ創出推進室付 保田 友晶

「バイオコミュニティ関西(BiocK)

～「つなぐ」「つなげる」「つながる」・集積から連携へ～

バイオコミュニティ関西 副委員長 兼 統括コーディネーター

／NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 副理事長 坂田 恒昭

「バイオコミュニティ関西『分科会』における連携 -盛り上げよう関西!」

大阪大学大学院 工学研究科 教授

大政 健史

「合成生物学とバイオファウンドリ開発動向」

神戸大学 副学長 科学技術イノベーション研究科長 教授

／理化学研究所 環境資源科学センター 副センター長 近藤 昭彦

「バイオファーストに向けたバイオ生産マネジメントシステムの構築」

京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 教授

小川 順

「バイオものづくりNEDOプロジェクト動向」

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

材料・ナノテクノロジー部 バイオエコノミー推進室 矢追 克郎

「バイオファウンドリを中心とした合成生物学の産業クラスターの創生」

株式会社バックス・バイオイノベーション 代表取締役社長

丹治 幹雄

「産業界がバイオファウンドリに寄せる期待～バイオファウンドリ活用可能性調査～」

株式会社ダン計画研究所 産業グループ 研究員

辻 雄介

2. バイオベンチャー支援事業

(1) 関西バイオビジネスマッチング2021の開催

バイオ分野で事業展開している企業等を対象に、業務提携、販路開拓、アライアンス締結等の推進を目的として、商談会をオンラインにて開催した。

◆新たにEventHubシステムを導入した

◆大学からの参加を増やすため、関西イノベーションイニシアティブ(KSII)を共催に加えた

◆10月1日募集開始、1月・2月商談実施

◆実績

参加登録:106(大学33、企業73社)、参加人数:171名、商談件数241件

(昨年度のトライアル:買い手6社に限定、売り手37社、商談数48件)

(2) 2021年度 海外ビジネス展開等支援事業(大阪府)

2019年度から継続して大阪府より本事業を受託している。有望な研究・技術シーズを有する府内ライフサイエンス関連産業中小・ベンチャー企業等のグローバルなビジネス展開を支援するため、海外企業等とのマッチング・アライアンスの促進を図ることを目的とし、本事業を実施した。

(2)ー1 海外企業等とのマッチング・アライアンス促進、

海外ライフサイエンスクラスターとの連携促進

下記国際会議に参加し、府と連携して、海外のライフサイエンス関連企業と面談し、大阪のライフサイエンスにおける強みを発信し、大阪における海外企業とのライフサイエンス分野の商談会への参加を促した。

□ <米国> BIO DIGITAL 2021

2021年6月10日(木)～18日(金)(パートナーリングイベントは14日～18日)

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインで参加

□ <欧州> BIO EUROPE DIGITAL 2021

2021年10月25日(月)～28日(木)

・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインで参加

□米国ライフサイエンス企業との商談機会の提供

府が<米国> BIO DIGITAL 2021のパートナーリングイベントにおける、米国クラスターへの米国展開に意欲的な府内企業の情報提供を企画した。近畿バイオのネットワークの中から条件に当てはまる企業を募集し、結果、ナレッジパレット社と富士フィルム和光純薬株式会社の応募があった。

(2)ー2 海外企業とのライフサイエンス分野の商談機会の提供

府と連携して、欧州企業と大阪を中心とする国内企業とのライフサイエンス分野の商談会を企画実施した。本年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響および府の方針により、オンライン商談会に変更となった。実施に際して、国内企業への広報活動や勧誘活動を、また日本側のシステム対応として、登録状況の確認、登録承認、入力情報に関する個別指導、質問等のチャット対応、ノーショウ等のトラブル対応を府と連携して行った。

また、本年度の取り組みとして、プレゼンテーションセッションがあり、大阪府がプレゼンテーションする時間は、近畿バイオのみで、質問等のチャット対応、ノーショウ等のトラブル対応を担当した。

参加者数、商談件数ともに昨年度とほぼ同等であった。さらに、事後フォローとして、アンケート集計を行った。アンケートの集計結果によると、87%の参加者が、期待にそうマッチングができたとの回答であった。

□「欧州ライフサイエンス企業との商談会」の開催

実施内容

開催日：2021年9月27日(月)～9月30日(木)

開催場所：オンライン(日欧産業協力センターの商談システム“b2match”を使用)

開催内容：個別商談会(40分枠)

対象分野：デジタルメディスン、デジタルセラピューティクス、医薬・創薬、創薬支援、再生医療、ヘルスケア(看護・介護等除く)等

参加実績：参加者数；156社・団体、(欧州106社・団体、日本50社・団体)

* 昨年度159社・団体(欧州104社・団体、日本48社・団体、米国7社・団体)

商談件数；291件 * 昨年度391件

参加国数；20か国 * 昨年度20か国

(2)ー3 産学官連携情報交流セミナーの企画・実施

府内のライフ中小企業等のニーズを踏まえたビジネス支援のための情報交流セミナーを企画、開催した。開催内容については、PMKイニシアティブと連携して、府と協議して決定した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、すべてオンライン(zoom)での開催となり、近畿バイオでは、案内チャ

シの作成、それを用いての広報活動、HPでの参加受付、視聴者の管理、zoomウェビナーの講演リハーサル、セミナーで使用する資料の作成、セミナーの実施、アンケートの準備と集計等を行った。参加者数は昨年度より増加した。アンケート集計結果からは、いずれの回も満足度は高い、との回答が得られた。

◆第1回 産学官連携情報交流セミナー 2021年9月2日(木) 参加者:121名

「医療と創薬でのAI活用事例」

株式会社HACARUS 代表取締役CEO 藤原 健真

「デジタル技術を活用した生活習慣病への対応とコロナ対策の取組み」

富士通Japan株式会社 ソリューションビジネス本部

ヘルスケアソリューションビジネス統括部 シニアディレクター 岩津 聖二

◆第2回 産学官連携情報交流セミナー 2021年12月2日(木) 参加者:57名

「脳回路マーカを用いたデジタルヘルス」

ATR脳情報通信総合研究所 所長/株式会社XNef 代表取締役CEO 川人 光男

「COI-NEXTでのデジタルバイオヘルス実現への取組み」

国立循環器病研究センター 理事・研究所長 望月 直樹

(3) BioJapan 2021出展支援

2021年10月13日(水)～15日(金)にパシフィコ横浜で開催されたBioJapan2021にて、一定区画のブースを確保し、近畿を中心に活動するバイオ関連の中小ベンチャー企業から出展を募り、14社の共同出展を実施した。

<出展企業>

(株)RDサポート、アズワン(株)、片山化学工業(株)、(株)カネカテクノロジー
神戸天然物化学(株)、(学)佐藤学園OBMRサーチセンター、(株)住化分析センター、
(株)セツロテック、ホソカワミクロン(株)、(株)ミルイオン、MiRXES Japan(株)、
(株)MORESCO、(株)理研ジェネシス、ルクサナバイオテック(株)

(4) 関西バイオベンチャー企業一覧の充実

バイオインダストリー協会(JBA)が作成している「バイオベンチャーダイレクトリー」との統合をJBAに提案し、12月27日付でJBAとの間で「共同事業実施契約書」を締結した。

3. 研究会

(1) 生活習慣病予防のための機能性食品開発に関する研究会

機能性食品の開発・商品化を通じて、高齢化社会における健康の維持、疾病・老化の予防、食産業の発展に貢献することを目的として2006年8月に設立した本研究会は、16年目を迎えて、延べ66回の研究会を開催した。今後も継続して機能性食品が「予防医学・代替医療」として有効に活かされていくよう、科学的根拠に基づいた機能性・有効性・安全性等を議論し、健康食品の信頼性を高めていく交流の場として継続実施した。新型コロナウイルス感染症の影響によりすべてオンライン開催となったことから、例年4回開催のところ、今年度は6回開催した。

また、神戸薬科大学と共催で「関西くすりと健康食品フォーラム」を開催した。

◆第1回研究会: 2021年 5月18日(火)

参加者:32名

「毛細血管の健康(ヘスペリジンを例として)」

江崎グリコ株式会社 応用研究室

宅見 央子

「生活習慣病の性差と機能性食品開発のターゲット」

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授

原田 直樹

- ◆第2回研究会：2021年7月6日(火) 参加者:32名
「眼精疲労を含む視機能の加齢性変化への取り組み」
ロート製薬株式会社 営業企画推進部 学術情報グループ 植松 由起
「皮膚感覚の分子メカニズムとその応用」
株式会社マンダム 基礎研究所 ライフサイエンス研究室 室長 藤田 郁尚
- ◆第3回研究会：2021年9月7日(火) 参加者:231名
※15周年記念シンポジウムとして公開開催
「食で健康維持をはかるー軽度不調改善による仕事のパフォーマンス向上に資する食」
農研機構 食品研究部門 主席研究員 山本(前田) 万里
「Well-being実現に向けた機能性食品の役割」
京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 内藤 裕二
「日本食から考える機能性素材」
順天堂大学 健康総合科学先端研究機構 客員教授 亀井 淳三
- ◆第4回研究会：2021年11月11日(木) 参加者:30名
「オルガノイドが切り拓く腸内細菌研究」
群馬大学生体調節研究所 粘膜エコシステム制御分野 教授 佐々木 伸雄
「柑橘成分の脳保護作用の研究および食品素材への展開」
松山大学 名誉教授 古川 美子
- ◆第5回研究会：2022年1月20日(木) 参加者:30名
「肥満に伴う代謝異常症の予防・改善に有用な食品素材の探索と機能解析」
京都大学大学院 農学研究科 准教授 後藤 剛
「健康寿命延伸のための毛細血管強化と機能性食品の役割」
神戸大学大学院 保健学研究科 教授 藤野 英己
- ◆第6回研究会：2022年3月8日(火) 参加者:25名
「高い水溶性カルシウム」
リン酸化オリゴ糖カルシウムの食を介したオーラルケアへの応用」
江崎グリコ株式会社 応用研究室 田中 智子
「医学から機能性食品研究へー疾病予防の要としての食品ー」
公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター 理事長 吉川 敏一

(2) バイオの次世代を考える会

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は活動を実施しなかった。

(3) 毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアム

毛細血管画像を健康指標として確立すること、およびその社会実装を行うことを目的として、2021年8月にコンソーシアムを設立し、本格的に活動を開始した。毛細血管画像は、生活習慣病などの特定の疾患、老化、疲労、ストレスなどの健康状態や美容と関連する指標として活用できる可能性がある。毛細血管画像と健康状態との関連を明らかにし、新しい健康指標として確立することができれば、健康寿命の延伸に貢献できる可能性があり、その意義は大きい。

今年度は以下のオープンセミナーおよび会員限定セミナーを企画し、実施した。

- ◆2021年8月20日(金) 第1回オープンセミナー 参加者:202名
「機能性表示食品取得を見据えた毛細血管測定の利用」
たしかにプラス株式会社 代表取締役
／一般社団法人 日本食品エビデンス協会 代表理事 深谷 泰亮
「毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアムについて」

- ◆2021年11月 8日(月) 第2回オープンセミナー 参加者:128名
「血管機能の非侵襲的評価法としての爪床毛細血管指標の可能性」
愛媛大学大学院 抗加齢医学(新田ゼラチン) 講座教授
愛媛大学医学部附属病院 抗加齢予防医療センター長 伊賀瀬 道也
「毛細血管ラボ・社会実装コンソーシアムについて」
NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事・事務局長 国松 武史
- ◆2022年 3月29日(火) 第3回セミナー(会員限定) 参加者:41名
「血管形成に関わる薬剤・食品開発の試験法」
大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授
／大阪大学 総長補佐 高倉 伸幸
「毛細血管の老化予防に着目した植物素材の開発～植物原料メーカーの挑戦～」
丸善製薬株式会社 研究開発本部 基盤技術研究課
主任研究員 大戸 信明

4. セミナー・講演会の開催

(1) 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

ライフサイエンス分野で最先端の研究をリードしている関西の先生方にご講演いただくセミナーを公益財団法人都市活力研究所と共同で開催した。新型コロナウイルス感染症の影響によりすべてオンライン開催となった。

- ◆第28回 : 2021年 6月 9日(木) WEB開催 参加者:78名
「ゼブラフィッシュを用いた循環臓器発生学研究」
国立循環器病研究センター 理事 研究所長 望月 直樹
「ポストコロナ時代における多剤耐性菌感染症克服に関する研究」
大阪大学産業科学研究所 教授 西野 邦彦
- ◆第29回 : 2021年 9月 1日(水) WEB開催 参加者:256名
「iPS細胞を材料とした汎用性即納型T細胞製剤の作製
-急性骨髄性白血病の治験へ向けた開発研究とウイルス感染症への応用-」
京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 副所長
／再生免疫学分野 教授 河本 宏
「感染症の重症化機構:マラリアから新型コロナウイルス感染症」
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫化学研究室
／微生物病研究所 免疫化学分野 教授 荒瀬 尚
- ◆第30回 : 2021年12月16日(木) WEB開催 参加者:59名
「ヒト嗅覚受容体セルアレイセンサーが拓く新しいにおいビジネス」
大阪大学産業科学研究所 教授
／株式会社香味醗酵 創業者・CSO・取締役 黒田 俊一
「炎症応答を制御するユニークなユビキチン修飾系と炎症性疾患への寄与」
京都大学大学院 医学研究科 研究科長 教授 岩井 一宏
- ◆第31回 : 2022年 3月11日(金) WEB開催 参加者:71名
「全ゲノム解析等を用いた網羅的ゲノム解析による
消化器神経内分泌腫瘍の病態解明」
大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻

ゲノム生物学講座・がんゲノム情報学 教授
／国立がん研究センター研究所 ゲノム医科学分野
分野長 谷内田 真一
「消化器がんの自然史に沿った疾患モデルの構築と応用」
京都大学大学院 医学研究科 消化器内科学 教授 妹尾 浩

(2) 会場参加型トークセミナー

宮田満氏のコーディネートによる会場参加型トークセミナーを開催した。本年度はノーベルファーマ株式会社代表取締役社長 塩村氏をお招きし、講演とトークセッションをオンラインで行った。

- ◆2021年6月24日(木) 参加者:324名
「希少疾患がバイオを救う」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役
／株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満
「希少疾患のビジネスチャンス」
ノーベルファーマ株式会社 代表取締役社長 塩村 仁

5. 外国バイオ関連機関との交流

(1) 新春トークセミナー

新型コロナウイルス感染症の影響により、リアル開催の新春国際交流会は中止し、オンラインにて新春トークセミナーを開催した。

- ◆2022年 1月27日(木) 参加者:142名
「バイオテクノロジーの最新潮流2021/22」
株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役
／株式会社宮田総研 代表取締役 宮田 満
「新型コロナウイルス感染症 最近の話題」
大阪大学大学院 医学系研究科 感染制御学 教授 忽那 賢志

(2) カナダ・日本交流マッチング事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催は見送った。

6. その他

(1) 西宮市植物生産研究センター企画業務(西宮市より受託)

西宮市植物生産研究センターの企画業務を支援するとともに、同センターで開発された新しい植物の商標登録出願に伴う会計事務等を行った。

(2) メルマガ配信

他団体のバイオ関連の各種イベント情報を、関係各位にメールマガジンとして配信した。
定期配信(2回/月)
臨時配信17回